1

弘前市出身・仙台市、東北大学
大学院理学研究科教授
千葉　柾司

大いなるもの

私は津軽に生まれ津軽に育ててもらった。私はそれをいつも誇りにしている。

高校を卒業後に弘前を出た。天文学の勉強をしたくて大学を受けてみたものの、高校時代を謳歌しすぎて落ちてしまい、これではいかんと発起して家を出て頑張って再挑戦することにした。その年の夏に初めて帰省したことを今でも鮮明に覚えている。東京に出ていた友人らと合流し共に青森経由で奥羽本線に乗った。電車の中から見慣れた風景や街並みが見えてくると、みんなではしゃいで盛り上がってしまった。岩木山が遠くに見えてくると、津軽を出ていろんな苦しいことやつらいことがあったことも吹っ飛んでしまって、安心した気持ちになってきた。

今でも帰郷するたびにまず岩木山を見つけようとする。そして、いつもあるべき場所にその姿を見つけて安心する。実家はリンゴ農家であったが、リンゴの木々の向こう側に山がよく見えた。小さいときから畑によく連れて行ってもらった。（仕事の手伝いはちっともできなかったが…）夕方になると太陽が山の方向に低く見えた。季節によって山に対する太陽の沈む位置も変わる。太陽が沈んで山がいよいよ黒いシルエットの状態になってくると、さあ帰るぞと父親が叫びトラックに乗って家に帰る。トラックが曲がるたびに山が見えたり見えなくなったりしながら、どちらの方向に向かっているかがよくわかる。時々きらきら輝く宵の明星（金星）も山の方向に見かけた。

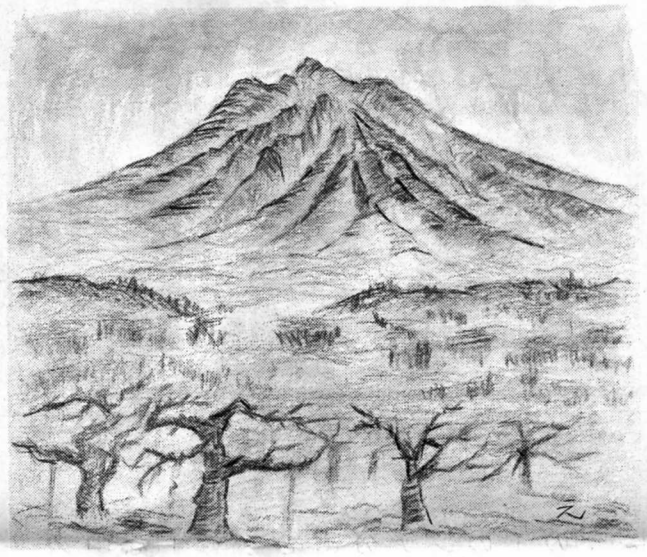
いつも順風満帆とはいかない。どうしてもうまくいかないとき、苦しくてどうしたらいいかわからなくなって方向を見失うことも多々ある。逆に、いい気になりすぎて方向を間違えていることもある。父親が病に倒れたとき、急遽帰郷して夜に着きどきどきしながら病院に向かう車中からも山が暗闇の中にかすかに見えた。火葬場からは実によく見えた。

岩木山のような大いなるものに畏怖と尊厳を覚える。矮小なものを圧倒し、動じない大きな方向性を与える。そして私は、大いなる銀河宇宙の進化の解明に挑む研究を志し、今それを職としている。銀河宇宙はものすごく大きいので、進化するのも何十億年やそれ以上もかかり、それに比べたら人間は本当に小さなものだ。宇宙の年齢は137億年。

土や草のにおい、リンゴの香りに包まれ、岩木山に代表される雄大な自然と豊かな文化の中で生まれ育ったことを誇りに思う。だから、いつでもケッパッテこれたし、これからもジョッパリ張ってやっていこうと思う。

◇　◇

津軽の魂（ｓｏｕｌ　ｏｆ　Ｔｓｕｇａｒｕ）を原動力に、活躍する津軽出身者がいる。「望遠郷」では、遠く離れた古里への熱い思いやそれぞれの活動などについて自由につづってもらう。



挿絵・佐藤　元昭

主な材料
＝卵６個、
イップクリ
ム。

作り方＝
と卵白に分
をよくふい
ボウルに卵
砂糖50㌘を
えながらし
てる③別の
黄を入れ
し、軽く泡
②に加え、
ないように
混ぜ合わせ
じませた

主な材料
＝乾燥ヒ
２個、青
チュジャ

作り方＝
水に30分浸
ザルで水気
２個を割り
ルで小麦粉
水２００
ャン小さじ
じ1/3と混ぜ
切った青